

留学生の声

BISANGWA innocent
Rwanda
Class of 2014
Student, Yamagata University
Tsuruoka Campus.
Japan

大学院農学研究科2年 出身 ルワンダ
(安藤 研究室)



My life at Yamagata University in Tsuruoka campus is something that went beyond far the cross cultural perspectives I developed, or the skills and abilities that were fostered there help me face up to the larger issues which confronted me later in all aspects of life.

The master program provided me a unique and varied experience, where I believe I learnt to look at things in a new way, in a manner that the method of summation of objective facts and empirical analyses, taught in most institutions of higher learning today, fails to address.

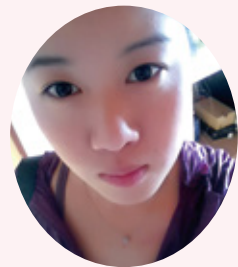
My studies at YU would not have been possible without the generous collaboration of laboratory mates and my supervisors for which I will be forever thankful.

From my point view, I have collected a lot of knowledge, not only theoretically but also practically, that is essential for my future career.

楽しい留学生活

候 瑩

大学院農学研究科1年 出身 中国
(小沢 研究室)



私は去年の11月に日本に来ました。学部時代に交換留学の経験があって、留学は今回が2回目です。今年の4月に山形大学を受験し、修士1年生として長期の留学生活を始めました。

日本での生活が大好きですが、多くの壁にぶつかってきました。2回目とは言え、日本に来た初めころは、日本語が全然出来なかったのが、大変でした。やはり外国での生活は語学が一番大切だと痛感しました。それに、一人暮らしも初めてだったので、なんでも自分で解決していかないとはいけません。これが自分の成長につながったと思います。日本で、母国にいたら学べなかったことを多く経験しました。

この半年間の学内生活で専門知識を勉強するほか、研究室の人と仲良くなれたことが何よりうれしいです。よく研究室のメンバーで集まって、忘年会、離散会、歓迎会、花見、バーベキュー等の宴会をやっています。やはり学生、先生と交流を深めたことが一番楽しかったです。その場でうちとけあって、友達となって一緒に場を盛り上げるのが好きです。山形で地元の祭りも行きました。友人から誘ってもらって、酒田祭り、天神祭や花火大会に行きました。祭りで日本の民族風情に感動を覚えました。地域と主題の違いによって、祭りの特色もそれぞれです。多くの地元美食も食べられて、本当に楽しかったです。祭り大好き人間になりました。

生活では、4月から学校に通いながら、アルバイトを始めました。仕事の疲れより、アルバイトでの経験の方が印象深く、日本の生活についての理解が一層深まりました。社員、あるいはアルバイトにしても、仕事をちゃんと責任持ってやるのは素晴らしいことだと感じました。会社の発展のために、皆一生懸命にやっています。アルバイトの私にとって大変勉強になりました。

留学生活は忙しいですが、充実した日々で、とても楽しくやっています。中国にいた時は手帳をつける習慣はなかったのですが、今では毎日書いています。時々前の手帳を見ていると、スケジュールのハードさに改めてびっくりすることがあります。多くのことをコツコツこなしてきた自分を考えると、なんとなく満足感が自然と湧いてきます。

もちろん楽しいことばかりでなく、辛い時、泣きそうな時もありました。しかし、苦勞が多い分、人生に対して深く考えるきっかけにもなっています。人生は前進のみだだと思います。一回しかないが、歩み方はいろいろあると思います。文句言わずに楽しくやるのがモットーです。これからも、もっともっと充実した留学生活になるように頑張っていきたいです。

Andreas Hendracipta Kurniawan
1st grade master student

大学院農学研究科1年 出身 インドネシア
(佐藤 智 研究室)



「BAKAYARO!」。8年前の初来日後、初めて覚えた日本語である。当時の仕事はとにかく苦しかった。農学学士である私が建設現場で働くことになろうとは…。

2004年にインドネシア国立ガジャ・マダ大学農学部を卒業後、インドネシア植物保護誌の編集者になった。数カ月後、叔母から「海外で3年間働かないか」と勧められ、非常に良い給料だったのですぐに申し込んだ。12月初めに静岡県三島市に降り立った私を待っていたのは、つらい生活だった。当時は日本語をほとんど話せなかったし、仕事の要領も得なかったので、1ヶ月でホームシックになった。しかし契約上3年間働き続けなくてはならず、帰国は出来なかった。働く以外に選択肢は無く、この仕事に終わりが来るとは信じられなかった。それでも3年間、日本の上下関係の中で懸命にもがき苦しんだことで、多くのことを学ぶことができた。

インドネシアに帰国した私は、母校の毒物学研究室で研究助手に採用された。私には修士号を取る目標があったからだ。殺虫剤への害虫の抵抗性の管理について研究に取り組んだ。2009年にトビイロウンカの大発生があり、16万haもの水田が被害を受けた。この害虫の防除をするため、発生量のモニタリング調査に精を出した。

幸運なことに、2008年に山形大学の安田教授と佐藤准教授に出会った。2人は共同研究でガジャ・マダ大学に訪れているところだった。留学するという夢の実現に一步近づいた。先生達が文部科学省の奨学金の手続きを手伝ってくれたおかげで、2013年9月に再び日本の地に降り立つことができた。今は動物生態学研究室の一員となり、修士号取得に向けて日々研究に明け暮れている。研究テーマは特定の殺虫剤がだだちゃ豆の植食者と捕食者の発生に及ぼす影響である。日本人は当然ながら他国からの留学生の友人もできた。彼らは皆優しく、鶴岡に来てから現在まで助けられっぱなしだ。そのうちの一人が同学年の岩澤薫だ。彼女は、私の実験圃場の隣で雑草群落が節足動物群集に与える影響を調査していて、研究について意見し合ったり、お互いの作業を手伝うこともある。本稿を日本語に翻訳してくれたのも彼女である。

私は今この環境にたどり着けたことに、とても感謝している。これからも日々最善を尽くすつもりだ。「BAKAYARO!」と怒鳴られていたかつての「研修生」が日本で「修士号」を取得することは決して不可能ではないことを、私はこの人生をもって証明するのだ。

(訳 岩澤 薫 大学院農学研究科1年)

大学院農学研究科2年 出身 ルワンダ
(金 研究室)

The experience on the Yamagata University

It was in March 2012, when I was awarded a scholarship by JICA to come to Japan to undertake a two years Master's degree in Agricultural Economics at Yamagata University in Tsuruoka Campus. My employer, the Government of Rwanda where I worked as the agribusiness and private sector officer since 2009, recognised this priceless opportunity and gave me a two years study leave for my absence.

I spent my two years in the Agricultural Economics Laboratory researching on marketing systems of agricultural products, focusing on its benefits and limitations to producers. Master's program at Yamagata University is research based, it helps to stimulate independent learning capacity of students, and support from professors is extraordinary. I am assured that the knowledge and skills obtained in these two years will help me to contribute to improved agribusiness development policies in Rwanda. My cultural experience was a total shock at the beginning, considering its variation between Africa and this eastern part of the world. Language, food, weather, and lifestyle was a struggle but with support from other international students and some university programs for cultural exchanges I was able to go beyond my limits and started enjoying every bit of life in Japan. The kindness, hardworking spirit and discipline of Japanese people were a life changing experience that is worth going through.

Name: Verena Ruzibuka Country: Rwanda Promotion: 2012-2014



支部報告

月山会 (鶴窓会北海道支部) 活動報告

月山会会長

菅原 義昭

(昭和40年農業工学科卒)

今日、北海道では初雪の便りがありました。活動報告が遅くなり、こんな時期になってしまいました。鶴窓会事務局の方にはご迷惑をおかけし申し訳ありません。

さて、毎年恒例となっております月山会(鶴窓会北海道支部)も今年で24回目を迎え、9月7日土曜日15時30分から、札幌市内のKKRホテル札幌で開催いたしました。

昨年寄贈して頂いた会旗を掲げた会場において、原田淳幹事(60年農工卒)の司会で始められ、菅原義昭会長の挨拶では、来年25周年を迎えるにあたって記念行事を考えているとお話がありました。村本進願

間(38年農学卒)の乾杯の音頭で懇親会が始まりました、近況報告の後、皆さんが楽しみにしている山形県物産の抽選会、そして逍遙歌の斉唱、最後は早坂武男副会長(41年林学卒)の締め音頭で閉会となりました。その後は、スキノへ行かれた方もおられると聞きました。

今年の参加者は28名で、昭和31年卒の加藤光則さん、高橋隆明さんから平成17年卒の三浦聖さん、渡邊充さんまで幅広く参加して頂きました。また、残念ながら都合が合わず出席できなかった方々からもメッセージをいただきました。

来年は25回目という節目の月山会となることから、幹事の中で何か記念となる事業をと考えているところですので、今後ともご支援よろしくお願います。

文責：磯部 勝彦
(52年農業工学科卒)



第24回 月山会 平成25年9月7日(土) 於 KKRホテル札幌

支部総会の 定着を目指して

最上支部 支部長

岩井 利夫

(昭和45年農業工学科卒
昭和47年農学研究科修了)

再出発した第2回最上支部総会(通算第4回)が、柳原敦鶴窓会副会長をお迎えして、左記の通り開催されました。

日時 平成25年8月3日(土)

17時～19時30分

場所 大地会館

(新庄市沖の町)

参加人数は13名でした。前回は多数の参加があるように力を入れましたが、今回は案内状を出すだけで、出席を呼びかける電話などしませんでした。長く継続するよう無理をせず、自然体で臨みました。それでも、最上町職員の方と金山町職員の方の2名の方が新たに出席して、繋がりや輪を広げることが出来ました。

協議の平成24年事業実績と決算、平成25年事業計画と予算は短時間で終了させ、懇談会が出席者各自の近況報告等が行われました。印象的なことを列記します。

(1) 支部副会長のAさんは、落語を聞くことに嵌まっていた、色々な所に出かけて聞いてくるとのこと。まだ、落語を自分が話す気にはならないそうです。

(2) 自分のやりたいことを行うには、新庄市議会議員の枠(機能・権限)が小さすぎると、大きな体を丸めて、少し寂しそうに語るBさん。

(3) 新庄市芸術祭参加の「文吉こけし」と最上の木地玩具」展を主催する出席最年長者のCさん。多彩な活動を展開していて、明るく元気で話し上手。

(4) 定年退職後の再就職で今までに身に付けた知識・技術を活用し、農業従事者を育てている支部副会長のDさん。水を得た魚のように生き生きとしています。

(5) 柳原副会長と同期の出席者Eさんは、副会長と共通の知人や先生方の名前を確認し、学生当時の話題に花を咲かせていた。これこそが同窓会の姿だと思います。

まだまだありますが、今回はこれで止めます。最上支部の会は楽しく語り合い、予定を20分オーバーして終了しました。



最上支部総会 平成25年8月3日(土) 於 新庄市「大地会館」

村山支部総会 について

村山支部 支部長

栗野 省三

(昭和44年農芸化学科卒)

隔年開催の村山支部総会が、9月29日(日)に山形市内の国際ホテルで開催されました。出席者は24名と少なかつたが、盛況でした。

総会の前に、山形県庁農林水産部県産米ブランド推進課販売戦略推進専門員佐藤和則氏(昭和63年農学科卒)より、「山形県における農産物販売戦略について」の講演をいただきました。特に、県育成品種の「つや姫」のブランド化について、現状と目標について、詳しくお話をいただきました。

総会では、古瀬支部長と来賓の佐藤鶴窓会会長より挨拶をいただきました。議事では、総会を毎年開催し、気楽に参加出来るようにする。また、事務の簡素化に向け、これまで年会費五百円をいただいていたが、これを廃止することを決定しました。

また、役員改選では、古瀬支部長に代わり私、栗野

が、副支部長には、阿部芳幸さん(S45農学科卒)、佐藤孝宣さん(S47園芸学科卒)、事務局長に齋藤博行さん(S45農学科卒)が選ばれました。

来年の総会は、50名程度の参加を期待して、楽しい懇親会に移りました。



村山支部総会 平成25年9月29日(日) 於 山形市「国際ホテル」

置賜支部報告

置賜支部 事務局長

石川 庄一

(昭和52年農学科卒)

本支部は、置賜地域(米沢、長井、南陽の各市と高島、川西、飯豊、白鷹)として小国の各町(に居住)勤務する同窓生で構成しています。

総会は隔年開催としており、今年(9月7日(土))に南陽市のむつみ荘で開催しました。

総会に先立ち、副支部長、八島伝内さんが今年6月に急逝されたため平成24・25年に亡くなられた4名の方のご冥福をお祈りしました。

総会には鶴窓会本部から齋藤博行副会長をお迎えし、「農学部及び鶴窓会の現状と課題について」のご講話をいただきました。

また、「同窓生の活躍状況として」事務局から(農)山形おきたま産直センター渡沢寿氏(平成9年生物生産学科卒)の活動状況を報告しました。

総会出席者は13人と少ない参加者でありましたが、総

会終了後の懇親会では大いに盛り上がりました。懇親の中で米沢市の島軒純一さん(昭和57年園芸学科卒)が今年5月から市議会議長の要職を務めていることも事務局から報告しました。

総会のほかに幹事会は毎年1月下旬に寒鰯を囲んで開催しており、支部の主な事業として、恒例の寒鰯幹事会、役員会、年賀状挨拶を行うております。

役員体制は、会長に小川洋さん(昭和43年農工卒)、事務局長に石川、事務局員に二宮弘明さん(平成元年園芸学科卒)、藤田淳志さん(平成11年生物環境学科卒)、近野太哉さん(平成20年生物生産学科卒)が選出されました。

今、NHK大河ドラマ「八重の桜」が放映されています。ドラマの舞台は、会津若松市、京都市が主ですが、八重が一時生活した米沢の様子も放映され、米沢は「天・地・人」以来の盛り上がりとなっています。

上杉藩は慶長六年(1601年)会津120万石から米沢30万石に移封され、その

後15万石に減封されました。そのようなことから、米沢での八重の生活は、テレビドラマのとおりに大変な苦労だったと思われます。

山形県内の高速道路網も着実に整備が進んでおります。是非、置賜地方に足をお運びください。



置賜支部総会 平成25年9月7日(土) 於 南陽市「むつみ荘」

平成25年度鶴窓会 宮城県支部総会 を開催

宮城県支部幹事

高木 康守

(昭和60年園芸学科卒)

東日本大震災から2年を経過しこれまで多くの皆様方から多大なるご支援等を賜っていることに感謝申し上げます。しかし、まだまだ多くの皆様のお力を必要としておりますので引き続きご支援等をお願いする次第です。

さて、同支部総会が平成25年6月9日(日)午後3時から仙台市青葉区のホテル法華クラブにおいて第6回となる平成25年度鶴窓会宮城県支部総会を開催しました。

本部からは佐藤会長にお出でいただき、総勢50名が参加し開催されました。

総会は昭和54年農学科卒業の日下喜博さんが開会を宣言後、昭和53年園芸学科卒業の高橋義典氏を議長に選出し「平成24年度事業報告及び収支決算」、「平成25年度事業計画及び収支予算案」を慎重審議いただき、それぞれの議案とも満場一致で承認されました。


総会終了後は昭和50年林学科卒業の河野裕氏から「宮城県における海岸防災林の再生に向けた取組みについて」と題して記念講演をいただきました。講演では藩政時代から多くの先人達が築きあげてきた、海岸林の大部分が東日本大震災の津波により失われてしまったこと。現在、その再生へ向けた取り組みが各地で行われていることを話されました。また、海岸林の再生には、生育環境の復旧、植林する苗木の育成、植林後の育成管理と多くの時間と人手を要することを話され、参加者一同それぞれ復旧、復興への思いをあらたにしたところでした。

記念講演後に懇親会が開催されました。懇親会は富樫二郎支部長のあいさつ、昭和57年農芸化学科卒業の首藤博敏さんの乾杯の音頭で開宴となりました。懇親会の冒頭には本部から出席いただいた佐藤会長から最近の大学を巡る状況についてお話をいただきました。佐藤会長の話の中で特に啓明寮が大変立派に改築されユニットバス、キッチン及びエアコン等の設備が整えられ寮費が一万八千円との報告に出席者一同から驚嘆の声が上がりました。改築前の寮費が七百円だった

ことや出席者が学生時代を過ごした当時の寮の快適な学習環境から更にレベルアップした環境になったことに驚いたのか嫉妬したのかはわかりませんが。思い出話が尽きない中、山形県立農林専門学校校道遥歌を昭和48年農学科卒業の三浦秀光さんの歌に合わせて出席者全員が斉唱し盛会裏に懇親会を終了しました。

なお、鶴窓会本部から鶴窓会宮城県支部へ同窓会旗が贈呈されましたのでその旗を背景に出席者一同で記念撮影も行いました。

来年度の同支部総会の開催は6月の第二日曜日となっておりますので多数の皆様のお出席を心からお待ちしております。




宮城県支部総会 平成25年6月9日(日) 於 ホテル法華クラブ仙台